

委員会だより

< 3月12日(日) 11名出席 >



■ 連絡事項:

- (1) 行事報告: 略
- (2) 行事計画:
 - 4月13日 聖木曜日
 - 4月14日 聖金曜日
 - 4月15日 聖土曜日(復活徹夜祭; 洗礼式)、大掃除は10:00amスタート
 - 4月16日 復活の主日(洗礼式) ミサ後パーティ委員会にて、ご近所へ挨拶。(普段より賑やかになることと、駐車場の関係から、復活祭の卵を持って)

■ 審議事項

- (1) 中和田カトリック教会委員会運営規定変更
 - ✦ 委員会後記を参照下さい
- (2) 復活祭祝賀会
 - ✦ 行事Gで準備進行中。
- (3) フィリピン・レイテ島 義援金 30,000円カリタス・ジャパンへ送金
- (4) 神奈川県司祭・修道者・信徒による共同宣教推進委員会主催
 - ✦ 入門講座指導者コース: 阿部映子さん
 - ✦ 聖書の分かち合いリーダー養成コース 現在応募者なし。
- (5) 聖体奉仕者の推薦
 - ✦ 今後「集会祭儀」が行われると聖体奉仕者が必要となる。奉仕者は教区の研修を受ける必要がある。
 - ✦ 鈴木神父の提言
 - ◆ 「特別な人がやる」という考えではなく、みんなが順番にやっていくスタイルがよい。
 - ◆ 10名くらい纏まって研修をうけたらどうか?
 - ✦ まず鈴木神父が、信徒の皆さんに説明する。その後公募か推薦とする。
- (6) 第5地区福音宣教委員会(小教区における教会学校の現状と問題点)
 - ✦ 第2回福音宣教委員会(4/30) 提出資料案の内容確認 ⇒ 審議結果OK、このまま提出する。
 - ✦ 中高生が少ないこと、また会話の接点を見出すのが難しいなどの課題について議論あり。
- (7) 葬儀取扱規定改訂

(8) 各委員/G

- a. 典礼(竹内): 聖週間の分担準備完了 5/5(初金ミサ)は無し。
 - b. 行事(花坂): 復活祭パーティ準備予定通り。肘掛け椅子の件は「匠の技」で対応するよう検討する。可能性を検討。
 - c. 広報(岩渕): 山崎崎神父追悼特集はA3両面で3〜4枚くらい、原稿集まりつつある。座談会もやる。
 - d. 財務(甲斐): 新G順調に発足
 - e. 要理(井上): リーダー学校、中和田から4名参加4/2新学期開始。
 - ◆ 一粒会と神学生と第5地区子どもたちの交流会の提案があった。
 - ・8/6にやりたいが夏期学校とのバランスを調整する。
 - ・親付で40名受入れはたいへん。
 - ◆ 予算の執行に関して: いちいち立替も困難なので、ある程度纏まった金額の仮払を願いたい⇒了承。
 - f. 書記/ヨゼフ会(小野) サロンの会計で、経費負担は信徒会に一元化して負担をお願いしたい。⇒了承。
- ✦ 5月14日、6月11日の両日は鈴木神父様が来られないので、委員会には他の神父様が出席する。
- ✦ その他: 大人も侍者をやって欲しい。

ヨゼフ会だより

< 4月23日(日) 11名出席 >



- 山崎山崎神父様を偲んで(座談会)
今回の例会は、この座談会に集中して行いました。内容については別稿をご覧ください。
- 議論:
- ◆ ヨゼフ会から一粒会への献金: 前年通りに継続する。
 - ◆ 黙想会: ヨゼフ会の念願である「黙想会」を、9月頃を目処に検討して行く。
- 連絡/協力お願い:
- ◆ 行事グループへの男性の参画・協力
 - ◆ 教会連絡網構築に関する協力願いの月の「カトリックとして何をを目指すのか」には、具体的な展開が必要であり、例えばヨゼフ会で黙想会を行ってはどうか。



広報 なかわだ 第323号

5月の予定

主の昇天	5月28日
委員会	5月14日
ヨゼフ会	5月21日



2006年 5月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1

Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成18年5月14日



お父さんが残してくれた宝

助任司祭 渡邊 裕成



少し前、母から「叙階10周年のお祝いがあつたら、私も行きたいよう。」と、電話がありました。私は「25周年とか50周年とかはあるけれど、10周年のお祝いというのは普通ない。」と答えました。そのうち、地元の富士吉田教会の神父さんが気を利かせてくれてか、私の叙階10周年のお祝いをみんなでやりたいので来てくれ、と招かれました。それからしばらくして、教会学校の先生から、せっかく富士吉田教会に来るのなら、子どもたちにも話をしてくれるように、司祭職のことで、今は復活節だからご復活のこともいいからと頼まれました。子どもたちにどんな話をしようかと思い巡らしながら、ある家族のことを思い出しました。その家族の思い出を今回の巻頭言に代えさせていただきます。

お父さんが帰天したとき、下の子は小学校1年、お姉ちゃんは小学校3年生だったと思います。お父さんは、5月のゴールデン・ウィークにみんなでふるさとの佐渡に帰ったときに倒れたのでした。そこで、お母さんが付き添いの看病をし、子どもたちもそのまま佐渡の学校に通わせてもらっていると伝え聞いていました。そんな状態が6ヶ月あまり続いたのでしょうか。お父さんはずっと平衡状態が続き、お母さんはやっとの思いで神奈川県内の病院で受け入れてくれるところを探し出しました。お父さんを受け入れてくれた病院は、家からはちょっとばかり離れていました。

私は一度訪ねようと思いつながら、なかなか訪ねられないでいました。子どもたちに聞いてみると、僕たちは週に一度、お母さんは毎日、行っているようでした。「お父さんとお話している?」と聞くと、「うん、している。」と、「お父さんはわかっているよう?」と聞くと、「うん、わかっているよう。」と答えました。

だいぶたってから、私はようやく訪ねることができました。お母さんに案内してもらって行くと、お父さんは体を自分では全く動かせない状態でいました。まぶたも自分では閉じられないでいました。ただ、呼吸は自分でしっかりとしていました。私は耳元で、お父さんにこんな風に語りかけました。

それは、お父さんが倒れる直前の復活祭のこと。その年の復活祭は、桜が満開でした。復活祭のミサを終え、教会のみんなとお花見に行きました。ちょうど酔いも回って心地よかったころ、私は席を立ちひとり出かけると、そのお父さんとお母さんがふたりで桜の木の下でバトミントンをやっているのが目に入ってきました。向こうでも、こちらのことに気づき、恥ずかしそうに会釈します。よく見ると、足元ではふたりの子どももじゃれあっています。

復活祭の日の満開の桜の木の下でのこの光景が印象深く、またお父さんが倒れたと聞いた後はその印象がさらに強烈なものとして残っていて、お父さんの耳元で「去年の復活祭の日、満開の桜の木の下で、家族みんなでバトミントンをしていましたね。私はその日のことをよく覚えています。」と語りかけました。すると、お父さんの呼吸がみるみる大きな大きな呼吸になってゆきました。お母さんは「わかつ

(次頁に続く)

お知らせ

✦ 洗礼おめでとうございます

4月15日 聖土曜日
マリア・マルガリータ・セシリア
金井純子さん

4月16日 復活の主日
アンデレ 大宮陸洋ちゃん



ているようですね。わかっているようですね。」と言って、私が帰った後も、ひとりそこに残りました。私がお父さんの帰天の知らせを受けたのは、こんなことがあってからちょうど一週間程たったころでした。私は複雑な思いでした。

葬儀の日には、今にも泣き崩れそうなお母さんをお姉ちゃんが一生懸命支えていました。

でも、火葬場でお父さんの棺が中にいれられ、扉が閉められると、お母さんは堪えきれなくて泣き崩れ、それと同時に子どもたちも大きな声で、ワアーと泣き叫ぶのでした。

話は少し飛んで、あるとき教会の子どもたちみんなに、「みんなの宝物は何」とたずねました。それは、聖書の中に「天の国は、宝探しのよう。それを見つげると、他のものはすべて後回しにしても、それを手にいれる。」とあるのを話していた時のことです。みんなは自分のちっちゃな宝物、クリスマスなどのときにもらったプレゼントのことを話してくれていました。ところが、ひとりの子が「私の宝物は家族」というと、そのあとの子たちもみんな「家族」というのです。これは、あやしいと思い「本当か？本当のことを言えよ。」という、その次からまた、それぞれのちっちゃな宝物のことに話が戻りました。ふと、最初に「私の宝物は家族」と言った子をもう一度確認すると、あのお父さんを亡くしたお姉ちゃんでした。ああこの子ならわかん、私は心に思いました。

お父さんがこの世のいのちを越えて残してくれた宝でした。



＜泉区民クリスマス 2005＞

典礼委員 竹内 広治

- ✠ 12月23日(金) 午後2時～4時 泉公会堂で祝会
- ✠ 祝会のあと、午後5時～ いずみ中央駅前でキャロリング
- ✠ 祝会は、聖公会・横浜聖クリストファー教会司祭 片山 謙司祭のクリスマスメッセージから開始。
- ✠ 今年は賛助10団体の参加があり、それぞれ個性あふれる熱演でステージが沸きました。
- ✠ 中和田教会からは、小谷徳爾氏のハーモニカ独奏が行われ、とくに印象深くありました。曲目は、ヨハン・シュトラウスの「南国のバラ」。見事なテクニックでの演奏で、米寿翁と紹介されると万雷の拍手を受けました。区民クリスマスには欠かせないタレントといわれています。
- ✠ 特別出演その1は「いずみコール」(女声合唱)。実力通りの演奏で、曲目のうち、とくに「さとうきび畑」は聴衆の胸を強く打ち、従来のクリスマスソング一辺倒のマンネリを脱した感がしました。
- ✠ 特別出演その2は「緑園マザーズ・ゴスペル」。初めて参加のグループです。まず、その多彩なハーモニーとパンチの効いた唱法に圧倒されました。チームワークのよさが将来に希望を抱かせます。祝会を締めくくるにもっとも相応しい演奏で圧巻でした。
- ✠ 最後に全員で「平和の祈り」を片山司祭の先唱で唱えて終会となりました。

中和田教会は司祭の異動など司牧体制の変更により、今年の区民クリスマスの主催団体には加わらず、信徒有志の自由参加といたしました。従って、従来のように教会財務から拠出していただいていた参加費は納入しませんでした。しかしながら、活動費が個人負担ではきついので、みなさまに資金カンパをお願いしましたところ、大勢の方々のご理解で13,511円も集まり、ありがたく使わせていただきました。ほんとうに、心から感謝いたしております。

併せて、実行委員会から、本年度の「泉区民クリスマス2005」における会場での献金額54,188円を善意銀行に全額寄付したとの報告がございました。

皆様のご理解、ご協力に心から感謝して活動報告といたします。



(編集の都合で掲載が遅くなりましたことをお詫び致します。 広報委員)



横浜教区第25回・典礼研修会に参加して

典礼委員 竹内 広治

✠ はじめに一言

1月開催の信徒大会において、布教委員と典礼委員を兼任の形でお引き受けすることをご承認いただきました。典礼のことは初めてのこと。ベテラン先輩のご苦勞なされた足跡の一つひとつを辿りながら、修行という名の奉仕を続けたいと思っております。

教会委員会のメンバーとして内部を見ていると、それぞれ活発化している部門の中に、最近典礼グループのご意見と実践に目をみはるものがあります。カトリック教会における典礼が注目され、特に中和田教会にそれが顕著であることに無上の喜びを感じている次第でございます。

さてさて、それに引き替え私の方は、典礼の、それも極く一般的な常識の枠の中の理解でありますから、これからの歩みに少々不安を抱かずにはおれません。このような有様で典礼委員を承ったことを、軽率の限りと反省しきりではありますが、これも神様からもっと勉強せよと諭されたのだと、嬉しく誇らしげに解釈して頑張りたいと思います。

✠ 学びの機会を与えられて

教区内で活気ある実績を誇る、横浜教区典礼委員会より「春季典礼研修会」開催のお知らせが届き、教会内で参加者の申し込みを募ったところ、早速10名の応募がありました。もちろん、新米の典礼委員としての経験不足を補う絶好の学習の機会として、11番目の受講者となりました。ご案内にあるとおり、教区の「典礼研修会」は25回を数えるほど高度なレベルが予想されます。理解することができるかどうか、退屈の虫が這い出てこないか、心配の種は尽きませんが、とにかくにもお話を聞きましょう。

2006年2月11日(土)10時から、カトリック藤沢教会聖堂にて
メイン・テーマは《典礼において、三位一体のいのちにいきる》

講師はフランコ・ソットコルノラ師(聖ザベリオ宣教会)

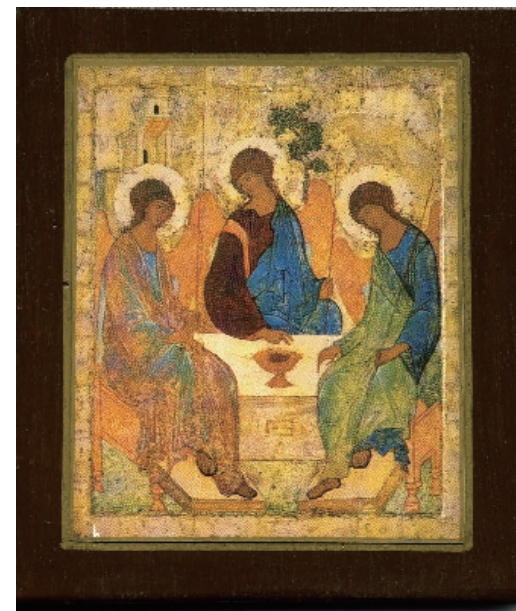
昼食をはさんで、午前、午後の講話は3時間に及びました。続いて梅村司教様司式・説教によるごミサで日程のすべてが終わりました。

講師のフランコ・ソットコルノラ師は、現在、熊本県の山奥にある真命山諸宗教対話・靈性交流センターを主宰され、日本文化へのキリスト教靈性の受肉を実践されているきわめて貴重な知識と体験をお持ちの方と伺っております。

【三位一体は理解することではなく、体験することである】

フランコ師は講壇の横に「三位一体の信仰を表現した有名なイコン(聖画)」を飾って講話の本題に入られま

した。流暢な日本語を巧みに操り、聴衆をして飽きさせないお話の進め方は流石なものと思いました。



高邁なお話はまだ続いております。慣れぬ手つきでメモを取るのにも、年のせいか疲れて参りました。お話と時間が無情に飛んで行ってしまう気がして焦ります。お話の内容の整理は簡単には纏められませんが、何かヒントを得たような感じがしています。教会においての典礼、その礼儀作法の習熟よりも、もっと本質的なものを悟らなければならぬと思います。いま「カトリック教会の教え」と「典礼奉仕への招き」のページを繰りな

がら、神との出会いとしての典礼を考えているところです。